

5-2 論理代入文  
(logical assignment statement)

一般形  $V = LE$

ここで、Vは論理型の変数名、あるいは配列要素名であり、LEは論理式 (logical expression) である。

論理代入文により、等号の右辺の論理式 (LE) が評価され、等号の左辺の変数Vへ代入される。

[例]

A, B, L, M, Nはいずれも論理型変数で、Gは1次元で大きさ5の論理型の配列であるとする。

$L = .TRUE.$  ..... Lの値は、真となる。

$M = A .AND. B .OR. G(I)$  ..... A, Bの一方、あるいは両方が偽でG(I)も偽のときには、偽をMに代入し、その他の場合には、真をMに代入する。

$N = X .GE. Y - 5.6$  .....  $X \geq Y - 5.6$  が成立すれば、真をNに代入し、成立しなければ偽を代入する。

$G(3) = .NOT. L$  ..... Lが真なら偽を、偽なら真をG(3)に代入する。

$G(K) = X .EQ. Y .AND. (P+Q .LT. X/2 .OR. (.NOT. M))$  ..... XがYに等しく、かつ、 $P+Q < \frac{X}{2}$  が成立するか、またはMが偽であるかの、いずれかである場合には、真をG(K)に代入する。  
その他の場合は、偽を代入する。